

ホンジュラス政治経済情勢（２０１９年１０月）

在ホンジュラス日本大使館

１ 内政

（１） ２０２１年大統領選挙に向けた動き

６日、民主統一党（ＵＤ）、ホンジュラス愛国同盟党及びキリスト教民主党（ＤＣ）の少数政党３党は、次期大統領選挙に向けて同盟し、統一候補擁立を目指す旨発表。

（２） 汚職

ア １６日、国会は、国会基本法改正を賛成８８票で承認。これにより国会議員はその資格で遂行する業務に関して、刑事、民事及び行政上の責任を負わないとする議員特権が与えられる。サンブラノ国会書記は、無処罰を意図するものではなく議員の職務を保護するためであると説明。同特権は過去にも存在し、２００３年に廃止されたが、今次承認を受けて復活することになる。ホンジュラス対汚職・無処罰支援ミッション（ＭＡＣＣＩＨ）は、同特権は違憲であり、検察庁の捜査権限を奪うものであるとして非難。

イ ２２日、当地駐在の米国臨時代理大使は、「汚職・無処罰との闘いにおいてＭＡＣＣＩＨの活動は重要であり、継続されるべき。我々は同機関の任期延長を強く望む。」旨ＳＮＳで発信。

ウ ２４日、オリバ国会議長は、新刑法の施行延期に同意する旨発表。３０日には、最高裁判所が国会に対し、新刑法における表現の自由及び民間部門に関連する条項の修正を勧告。ただし、国内世論の反発が集中している汚職及び麻薬取引に対する減刑については言及せず。

２ 外交

（１） １日付当地主要紙エル・エラルドは、本年１月から９月までに米国からホンジュラスに帰還した移民は８７，３３７名で、前年同期比で３１，０００名以上増加したとする当国領事・移民観測所の報告につき報じる。

（２） ２日、ニューヨーク州南地区裁判所において、麻薬密輸及び武器不法所持に係る罪（３件）、並びに偽証罪（１件）に問われているトニー・エルナンデス被告人（エルナンデス大統領実弟）に対する裁判が開始された。裁判の経過は以下のとおり。

ア ３日及び４日、ディアス証人（通称「エル・ロホ」）は、２００５年に同被告人に対し、エルナンデス大統領の選挙資金として４万米ドルを提供、２００９年にロボ元大統領（当時大統領候補）及びエルナンデス大統領（当時国会議員）の選挙資金として１０万ドルを提供した旨証言。７日、アルドン証人（元コパン県エルパライス市長）は、２００８年に国民党選挙資金としてロボ元大統領に２００万ドルを提供、２０１７年にエルナンデス大統領（当

時大統領候補）及びトニー・エルナンデス被告人から、同大統領の支持率が特に低いレンピーラ県及びコパン県の市長を買収するための資金を要求された旨証言。これに対しエルナンデス大統領は、同証言は１００％虚偽であるとして強く否定。

イ １１日、リベラ証人（麻薬組織ロス・カチーロス元リーダー）は、２００９年、ロボ元大統領に５０～６０万ドルを提供したと引換えに、米国に身柄を引渡されない旨約束を得た、加えて、同元大統領及びその息子ファビオ・ロボ被告人（当館注：２０１５年に麻薬密輸罪で逮捕）から、薬物収益の資金洗浄の手助けを受けた旨証言。さらに、エルナンデス大統領に２５万ドルを提供したほか、身柄保護を受けるため多くの政治家に賄賂を贈り、その中にはパチェコ治安大臣ら政府高官及び国会議員が含まれている旨述べた。

ウ １８日、トニー・エルナンデス被告人に対し、陪審員全員一致で有罪評決が下された。４件の罪状すべてについて有罪とされ、量刑は来年１月に言い渡される予定。最短で禁固５年、最長で終身刑の可能性がある。

- （３） ７日、米国政府は、中米北部３か国（ホンジュラス、エルサルバドル、グアテマラ）・米国間の「繁栄のための同盟計画」（ＰＡＰ）を廃止し、二国間レベルでの新たな経済開発協力計画を策定する旨発表。同計画は明年初めに発効予定。
- （４） ２６日、国内最高レベルの警備体制を敷くサンタバルバラ県エル・ポソ刑務所で、ネリー・ロペス（Nery López）被告人が殺害される事件が発生。同被告人は、トニー・エルナンデス被告人裁判で重要証拠品として提出された麻薬取引メモの所有者で、同被告人（「ト」被告人）と繋がりがあると見られていた。ロペス被告人は、身の危険を感じて他刑務所への移送を繰り返し要求していた由。本件主犯格は明らかになっていないが、犯行時の様子を撮影した動画が漏洩したことなどから、同刑務所関係者の関与が疑われている。

３ 経済

- （１） １日、韓国・ホンジュラス自由貿易協定（ＦＴＡ）が発効。当国輸出品のうち、コーヒー豆、砂糖、電気ハーネス、繊維製品等８０．１％の品目は即時関税撤廃、バナナ、パイナップル、タバコ、メロン等１５．５％の品目は段階的に関税撤廃となり、韓国からの輸入品のうち、貨物自動車、自動車部品、タイヤ等２８％の品目は即時関税撤廃、普通自動車等６５％の品目は段階的に関税撤廃となる。
- （２） １日、ホンジュラスコーヒー輸出業者協会（Ａｄｅｃａｆｅｈ）は、２０１８年１０月～２０１９年９月のコーヒー輸出額は９億５、１０１万米ドルで、前シーズン比１６．４％減少した旨発表。右輸出額減少は、輸出量の減少（前年比５．４％減）及び国際市場におけるコーヒー価格下落によるものであると説明。
- （３） ３日付当地主要紙エル・エラルドは、当国債務残高が、ＧＤＰの４６．３％に相当する１１

5億米ドルに達した旨の財務省報告につき報じる。

- (4) 10日、タボラ財相は、来年度予算の財政赤字を補填するため、台湾から3億米ドルの借款を受ける可能性がある旨発表。
- (5) 15日付当地主要紙エル・エラルドは、経済成長率の低迷及び政情不安により、第2四半期の海外直接投資は2億4,950万米ドルとなり、前年同期比で39.3%減少した旨の中銀報告につき報じる。
- (6) 24日、世銀が発表した2020年版のビジネス環境ランキング「Doing Business 2020」において、ホンジュラスは100点中56.3点で調査対象国190か国中133位となり、前年の121位から12ランク後退した。
- (7) 28日、デラス電力公社（E N E E）総裁は、E N E Eの3社分割（発電、送電、配電）にあと8か月要する旨発言。
- (8) 30日付当地主要紙ラ・トリブナは、米中貿易摩擦を受けてホンジュラス産繊維の需要が増加傾向にあり、本年のマキラ産業の輸出額は、計画値を上回る44億米ドルに達する見込みである旨報じる。

<主要経済指標>

◇主要経済指標◇	2019 年				2018 年	2017 年
	10月	9月	8月	7月		
インフレ率（前年同月比）	4.08%	4.42%	4.29%	4.69%	4.22%	4.73%
貿易収支(百万ドル)	—	未発表	—	—	△3,530.6	△2,677.0
輸出(百万ドル)	—	未発表	—	—	8,669.3	8,646.5
輸入(百万ドル)	—	未発表	—	—	12,200.0	11,323.5
外貨準備高（百万ドル）	5,137.6	5,055.5	5,063.6	5,068.3	4,853.1	4,785.6
外国からの送金（百万ドル）	—	未発表	—	—	4,759.9	4,305.3
為替レート（対ドル月平均）	24.80	24.77	24.71	24.67	24.07	23.65

<出典：ホンジュラス中央銀行> ※貿易収支、輸出、輸入、外国からの送金は、四半期毎に発表

(了)